

栃木県及び周辺の地震活動（令和 5 年 8 月）

【地震活動概況】

今期間、県内で震度 3 以上を観測した地震はありませんでした（前月 3 回）。

期間内の県内の最大震度は 2 で、震度 1 以上を観測した地震は 7 回（前月 10 回）でした。

【栃木県及び周辺の地震活動】

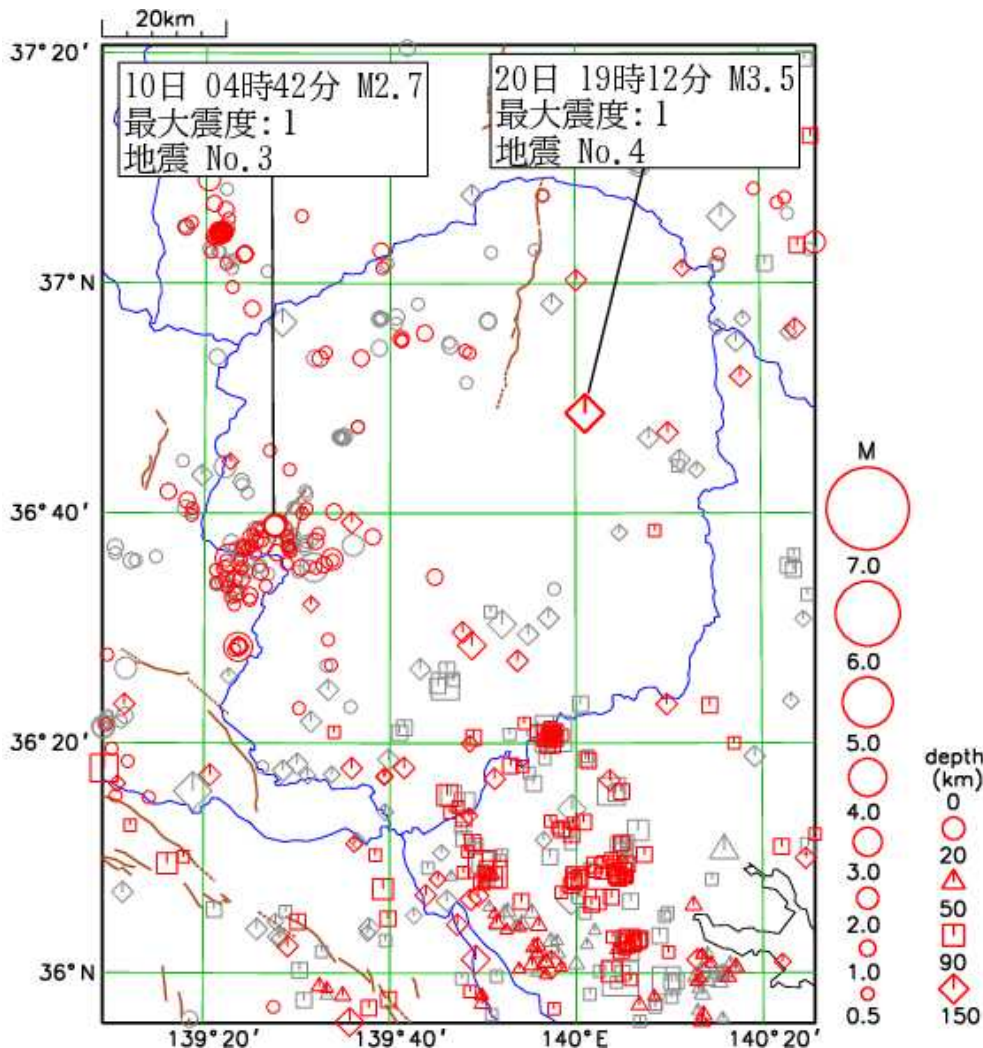


図 1 震央分布図（2023 年 7 月 1 日～2023 年 8 月 31 日）

- ・この期間の地震活動と比較するため、前 1 ヶ月の地震活動を灰色で示しています。
- ・図中の吹き出しを付けた地震は、県内震度観測点で震度 3 以上を観測した地震及び、県内を震源とする震度 1 以上を観測した地震です。地震 No. は県内で震度 1 以上を観測した地震のリストに対応しています。
- ・M はマグニチュードで 0.5 以上、深さ（depth）は 150km までの地震を示しています。
- ・図中の茶色線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示しています。

本資料は国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。※データについては精査により、後日修正することがあります。また、本資料中で使用している地図は、『数値地図 25000(行政界・海岸線)』（国土地理院）を加工して作成しました。

【8月に県内で震度1以上を観測した地震のリスト】

地震 No.	発震時		震央地名	北緯	東経	深さ (km)	マグニ チュード	国内最 大震度	県内最 大震度
	月日	時分							
1	8月1日	6時08分	茨城県南部	36° 09.4'	139° 49.9'	52	3.3	1	1
2	8月5日	4時27分	茨城県北部	36° 45.8'	140° 43.7'	92	3.8	2	1
3	8月10日	4時42分	栃木県北部	36° 38.9'	139° 27.5'	5	2.7	1	1
4	8月20日	19時12分	栃木県北部	36° 48.7'	140° 01.0'	100	3.5	1	1
5	8月26日	7時02分	茨城県北部	36° 31.7'	140° 34.3'	58	3.6	2	2
6	8月27日	22時56分	群馬県南部	36° 36.0'	139° 22.7'	5	3.4	2	2
7	8月28日	18時08分	福島県沖	37° 08.2'	142° 18.4'	11	5.0	2	1

・各地震の震度1以上を観測した観測地点名については気象庁HP等で確認して下さい。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqdb/data/shindo/index.php>

【震央分布図範囲内の地震】

今期間中、県内で震度3以上を観測する地震などの目立った地震活動はありませんでした。

【震央分布図範囲外の地震】

今期間中、県内で震度3以上を観測する地震などの目立った地震活動はありませんでした。

【防災メモ】地震と流言

1923年9月1日午前11時58分、神奈川県西部を震源とするM7.9の地震が発生しました。この地震は、そのあまりの被害の大きさから「関東大震災」と呼ばれるようになりました。

この地震は物理的な意味で人々を大きくゆさぶった一方で、精神的にも大きな衝撃を与えました。人々は突然起きた大規模災害により不安にかられ、「富士山が大爆発した」、「東京湾に猛烈な海嘯（津波）がくる」、「さらに大きな地震がくる」などの流言が出たことが記録されています（警視庁編「大正大震災火災史」より一部改変）。

情報網が発達し人々の科学的知識が向上した最近でも、このような流言は依然として確認されています（例えば、2016年熊本地震の時には動物園からライオンが逃げたという話が広まりましたが、事実ではありませんでした）。

このような不確実な情報に左右されないためには、そもそも災害時には流言が出ることを知識として知っておくこと、ラジオなどの公共性の高いメディアに判断の重きをおき、ソーシャルメディアの情報を鵜呑みにしないことが必要です。

関東大震災にちなみ、9月1日は防災の日として指定されています。地震や災害に対する物品の備えを確認すると同時に、その時の心構えについても考えてみてはいかがでしょうか。

・「関東大震災から100年」特設サイト

https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/1923_09_01_kantoujishin/gaiyo.html

【栃木・群馬県境の地震活動】

今期間に栃木・群馬県境付近の領域(a) (b)内 (図2) では、震度1以上を観測した地震が2回発生し、10日にM2.7の地震で震度1を、27日にM3.4の地震で震度2を観測しています。

領域(b)は定常的に地震活動がみられる領域で、M3～4程度の地震がたびたび発生しています。

領域(a)の2002年10月以降の活動をみると、平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の発生後、活動が活発になり、2013年2月25日のM6.3の地震(最大震度5強)、2014年9月3日のM5.1(最大震度5弱)の地震の発生後にさらに活発になるなど、時々まとまった地震活動がみられています(図3、図4)。

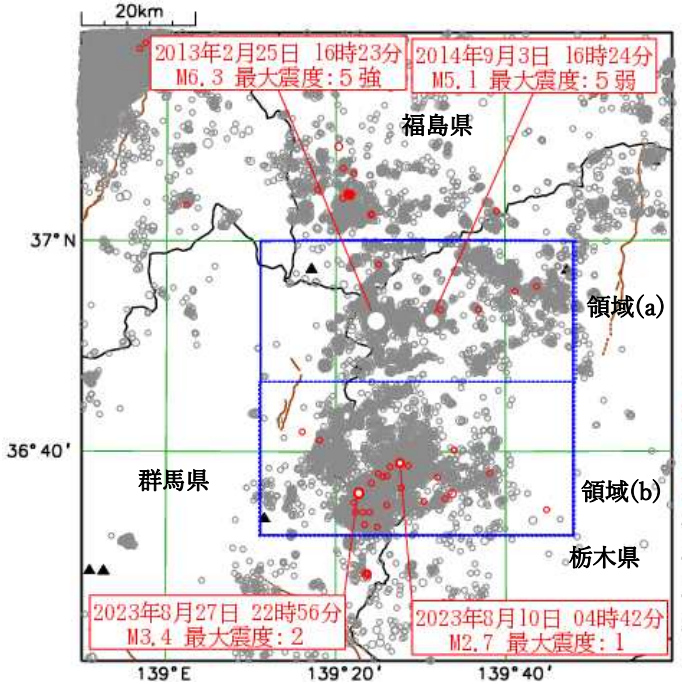


図2 震央分布図

- ・Mはマグニチュード1.0以上、深さ(depth)は30kmまでの地震を示しています。
- ・図中の茶色線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示しています。
- ・図中の▲は活火山の位置を示します。

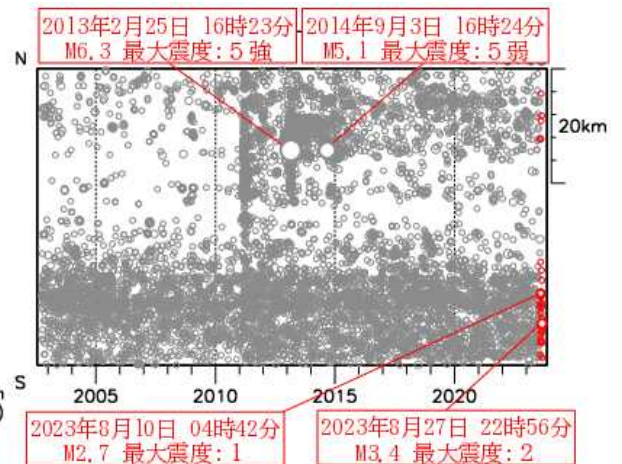


図3 領域(a)-(b)の時空間分布図

- ・縦軸は図2の領域(a)(b)の北-南の投影、横軸は年です。

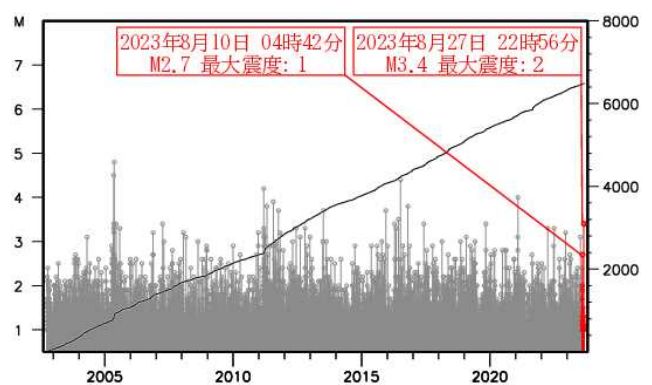
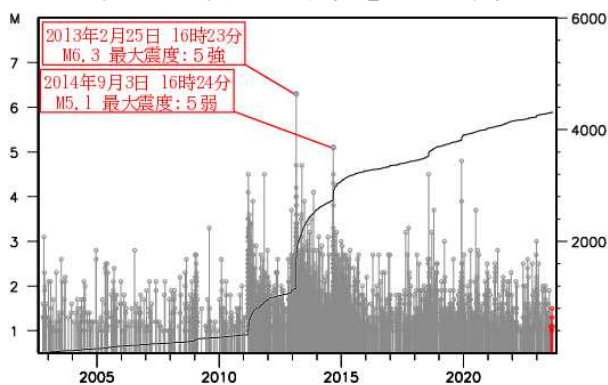


図4 地震活動経過図・地震回数積算図 左図：領域(a)、右図：領域(b)

- ・地震発生日時と、マグニチュードの大きさを丸の付いた縦棒で表しています。
- ・横軸は年月で、マグニチュードを示す目盛は左側、地震回数を示す目盛は右側です。
- ・折れ線グラフは地震の積算回数です。

・図2～4は、2002年10月1日～2023年8月31日のデータを使用して作成しています。

・2023年8月の地震活動は赤く示し、それ以前の地震活動を灰色で示しています。

本資料についての問い合わせ先：宇都宮地方気象台 電話 028-635-7260